

ジェット延長阻止

不当解雇撤回

銚子支部「デッチ上げ」業務再開「粉砕」

1.8-9減産率

日刊 動労千葉

81.1.3

No. 622

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五〜六(公衆電話)22七二〇七

闘争指令ヲ五号 を發出

「8.3」への闘いの幕切って落す

組合員の皆さん新年おめでとうございます。すでに予期していた通り、われわれの81年は文字通り熾烈な闘いの攻防の中に明けました。年末の布施組織部長に対する不当解雇の発令強行、これとを一にした銚子支部破壊、「業務再開」のペテン的強行が開始され、また国鉄当局は門松のとりはずしもぞくさに一月八日を目途に「ハ・三」へむけての情勢は一挙に切迫化している。年末闘争の成果にふまえて、ハ・三心勝を期して、本部は一月八日、九日の断固たる減産闘争を軸とした闘争指令ヲ五号を發した。全組合員の皆さん、いざ新春総決起をもって勝利のハ一年をわれわれの手で切りひらいていこう。「本部」革マル反動分子による銚子支部破壊、「再建」デッチ上げ策動を断固としてうちくたさ、「延長阻止・解雇撤回」闘争を意気高く闘いぬいていこう。

一挙に煮つまった情勢

(1) 布施組織部長不当解雇強行発令をめぐ
る状況

弁明弁護で完全に追いつめられた当局は、81.3つぶしのためにのみ12月24日一方的にうち切り強行発令を行った。発令通知書を受けとることを拒否すると共にわれわれは25日怒りの減産A行動に立った。

(2) ジェット燃料輸送延長提案をめぐる情勢

動労千葉の強固な闘争体制の前に、年末年始輸送への影響を恐れて年末提案を断念していた当局も、準備期間のリミットに迫られいよいよ一月初旬(一月八日)に提案を強行してくる動向にある。

(3) 銚子支部「デッチ上げ」業務再開「粉砕」
状況

「日刊」618号(12月27日付)で既報のように、追いつめられた本部「革マル」反動分子と密通した一部反動分子が支部大会(10月27日)決定を執行委員会での採択強行でもって「ファッショ」的に覆えすという不法をもって「業務再開」を自航(12月23日)。これは他局からの短期転勤者の帰任による組合員数激減、「本部」次佐倉支部、副支部長、鈴木正広の助役試験受験や特選者の繰出による内部崩壊的事態等に焦る彼らの願望を失ったクーデターの暴挙であった。われわれは銚子組合員の希望を「ファッショ」的にネジ曲げようとする

る大川明義、石津新治、菅谷任、石毛一男、渡辺昭夫、根本勝美、山田桂介、栗橋忠敏を徹底的に糾弾し、その責任を追及するものである。

銚子支部内の良心的組合員はかかる前代未聞の「執行委員会決定」を当然にも拒否し、正当な規約規則にもとづいた「支部臨時大会開催要求」の署名活動を開始し、即ちに決起した。動労千葉は銚子の良心的仲間、決起にこたえ年末、年始をつらぬく全力の取りくみを展開し大きく活性化をもちとりつつある。「支部大会を開かないのはおかしい」「動労千葉へこそ結集すべきだ」の声を日に日に大きく結集してきている。

以上の情勢にふまえて、本部は12月30日、以下の闘争指令をもって81年年頭の闘いへの決起を指令した。

闘争指令 才五号(80.12.30)

(要旨のみ)

- 各支部は一月八日(闘争開始時)より九日24時まで、全組合員による減産闘争(B行動)を実施すること。但し、千葉以西の国電関係業務員については、各自とも零時より12時までをB行動、12時より24時までをA行動とすること。
- 一月八日、14時、千葉運転区講習室に全支部活動者会議を召集する。
- 各支部は、一月十四日「団結旗びらき」を前記三闘争課題の事実上の総決起集会と位置づけ、最大限動員をもって結集すること。一月十四日、十三時、労働者福祉センター。
- 一月七日、九日銚子オルグを実施する。